第4章．工業用水道編

1　事業の経緯

昭和５９年１２月	通商産業省に「富士町工業用水道事業」として事業届を提出
昭和６０年　８月	供給開始
平成１９年　２月	取水井戸の水位低下により送水停止。その後の調査により、取水井戸の最大可能揚水量が、操業当時の1,800㎥/日から、352㎥/日～267㎥/日に低下していることが判明。これ以降、井戸水位低下による送水停止は起こっていない。
平成２４年　２月	配水池を新築移転し、有効貯水量を100㎥から300㎥に増加
平成２７年　４月	市長部局から佐賀市上下水道局へ事業移管
平成３１年　１月	配水池に加圧ポンプを設置
令和　４年　６月	供給先企業（半導体関連）より使用水量の増量要望。現状では水量不足のため水源調査を実施。結果、水量、水質共に良好であった富士南部環境センター内の休止井戸を活用して整備することを決定
令和　６年　３月	富士南部環境センターから浄水場まで約356mの導水管敷設

2　現在の給水状況

○給水能力 1,000㎥／日
○基本料金 30円／㎥ ※超過料金(基本使用水量超過分)40円／㎥
○供給先企業 3社

○給水量

事　　項	単　位	R3年度	R4年度	前年度対比	R5年度	前年度対比
年間給水量	m^3	50,542	47,012	93.0	43,673	92.9
一日平均給水量	〃	138	129	93.5	119	92.2

3　施設の所在地

施設の名称	所在地	施設規模等
富士工業用水道 浄水場	佐賀市富士町大字下熊川 98番地	水　源:表層地下水(浅井戸 8.38m) 取水能力:1,075㎥/日
富士工業用水道 配水池	佐賀市富士町大字上熊川 690番地29	配水池容量:RC2槽式 有効容量300㎥

4 施設の位置図

5 浄水場施設

富士工業用水道 浄水場

主要施設		規格・規模	
取水施設	取水井	RC造り　2.6W×2.6L×2.0H(浅井戸)　取水井深度 H=8.38m	
	揚水管	SGP　φ80mm×7.827m(有効長)	
	取水ポンプ	水中ポンプ　φ80mm×2段×3.7kw　Q=1,075m³/日　H=18.5m	2台
導水施設	導水管	ダクタイル鋳鉄管・内外面ナイロンコーティング鋼管・硬質塩化ビニルライニング鋼管 φ100・φ65　L=356m	
浄水施設	着水池	RC造り　1.2m×0.9m×2.0m　有効容量 2.16m³	1池
	薬品混和池	RC造り　1.2m×1.2m×1.7m　有効容量 2.45m³	1池
	フロック形成池	RC造り　2.0m×2.0m×2.0m　2段　有効容量 13.6m³	2池
	薬品沈殿池	RC造り　2.0m×5.5m×3.2m　有効容量 35.2m³	2池
	送水ポンプ井	RC造り　5.0m×4.0m×2.3m　有効容量 46.0m³	1池
	ポンプ薬注室	RC造り　5.0m×7.0m　面積 35m²	1棟
	電気計装設備	鋼板製屋内自立型	1式
送水施設	送水ポンプ	多段渦巻ポンプ(フライホイール付)　φ80×0.7m³/分×70m×15kw	2台
	送水管	ダクタイル鋳鉄管・水道用塗覆装鋼管・硬質塩化ビニル管 φ200・φ150　L=761m	

富士工業用水道 配水池

主要施設		規格・規模	
配水施設	配水池	RC造り　10m×5m×3m　2槽式　有効容量 300m³	1池
	加圧ポンプ室	RC造り　3.0m × 2.0m　面積 6m²	1棟
	加圧ポンプ	加圧給水ポンプユニット　φ65−50×477m³/分×15m×3.7kW×2基	1式